

2020年度秋季大会 支部活動委員会企画 「交流ひろば」・「地域発信企画」開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会

開催日：2020年11月28日（土）

実施形態：オンライン開催

日本語教育学会秋季大会の一環として行われる交流ひろばと地域発信企画は支部活動委員会が担当します。2020年度の秋季大会は新型コロナウイルス感染症拡大に伴ってオンライン開催となりましたが、当初の予定では姫路で開催されることとなっていたことから、関西支部が企画・運営を担当し、他支部の委員からも協力を得て実施しました。

交流ひろば

交流ひろばは、日本語教育に関わる情報交換を促進しながら、教育・研究に対する関心や問題意識を共有する場を作ることを通して、参加者のネットワーク拡大を図ることを目的としています。今回は、日本語学習支援ツールや教材作成ツールの開発、様々な教材やコーパスなどの開発、文法・語彙・表現の指導法を巡る教育・研究への取組、日本語教師のキャリア支援をテーマとした12の活動報告が行われ、約500名の参加を得ました。各会場で活発に質疑応答が行われ、世界中どこからでも参加できるというオンライン開催のメリットが生かされたものと思われます。事後アンケートの回答でも、発表資料の事前視聴や事前質問の受付に対する肯定的な意見が見られましたが、真の意味での参加者間の「交流」が実現しにくいことやポスター発表や口頭発表との区別がつきにくくなることといった課題も改めて浮き彫りになりました。

地域発信企画

地域発信企画は、日本語教育学会秋季大会の開催地を対象地域としながら、その地域の日本語教育の様々な取り組みや成果を全国に発信することを目的に開催されます。今回「地域の外国人に寄り添う『やさしい』日本語」をテーマとしましたが、狭義での「やさしい日本語」に拘ることなく、関西コミュニティの多様性を発信することとし、6つの活動を紹介しました。児童・生徒に対する日本語教育を巡る課題や取り組み、多様化する地域ニーズやそれらに即した取り組み、更には支援者の育成・ネットワーク化をテーマとして、オンライン参加した約300名の参加者との活発な質疑応答が行われました。

回線トラブルなどのオンライン開催ならではの課題もありましたが、試行錯誤を重ねつつ、より円滑な運営につなげていきたいと思えます。各出展を通して芽生えた共通の問題意識や関心が参加者同士のネットワークを広げるきっかけとなってほしいと願ってやみません。

本企画の実施にご協力くださいました出展者の皆さま、関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。次年度は北陸支部が本企画を担当します。

（報告：関西支部活動委員 ルチラ パリハワダナ、亀田美保、木下謙朗）